

牛伝染性リンパ腫

牛伝染性リンパ腫は、白血球の一種であるリンパ球が腫瘍化することで起こり
以下の疾病型に分類されます

- ① 地方病型 牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV) 感染によるもの
- ② 散発型 ①以外 発生部位と年齢により子牛型/胸腺型/皮膚型

特に、BLV により引き起こされる地方病型は、近年、全国的に発生が増加しており、当所においても増加しています。ウイルス感染拡大の原因は、人為的感染(汚染された注射針の使用等)、母子感染(感染牛の乳汁、分娩)、水平感染(吸血昆虫の媒介感染、同居牛からの感染)が考えられ、現在有効な治療法、ワクチンはない疾病です。ウイルス感染牛の大部分は無症状で、一部が発症し、体表リンパ節の腫大、削瘦、眼球突出、元気消失、食欲不振、乳量減少、下痢などを示します。しかし、見た目に異常がなく、と畜検査で初めて牛伝染性リンパ腫と診断されることもあります。当所では以下の流れで診断を行い、迅速な行政処分を心がけています。

当所での診断の流れ

生体検査

- ・眼球突出や体表リンパ節腫大等の疑わしい症状
- ・血液検査(必要な場合)

合格の場合
と殺

不合格
と殺禁止

解体後検査

- ・解体検査(内臓、リンパ節等に腫瘍病変の確認)
- ・病理組織検査(凍結迅速組織標本、スタンプ標本)
- ・ウイルス遺伝子検査(LAMP法によるBLVの検出)

以上により、牛伝染性リンパ腫と診断

全部廃棄

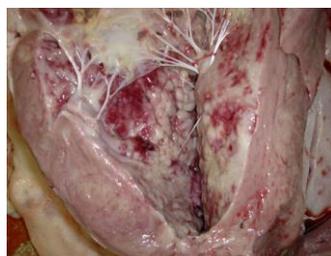
行政処分決定後に、固定材料を用いて更なる精密検査を実施しています。



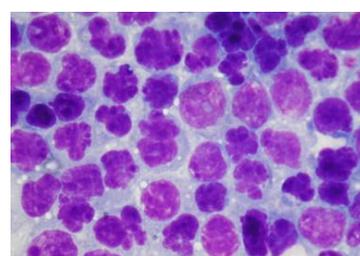
リンパ節の腫大
(出典：動物衛生研究所)



遠心分離した血液
左：牛伝染性リンパ腫、右：正常



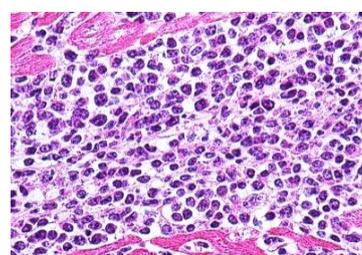
腫瘍化した牛の心臓
(心臓は病変がしやすい部位です)



腫瘍細胞
スタンプ標本(メイギムザ染色)



凍結マイクロトーム



心臓組織内の腫瘍浸潤
凍結迅速標本(HE染色)

日ごろから飼養衛生管理および防疫対策を徹底し、牛伝染性リンパ腫が疑われる場合は、[最寄りの家畜保健衛生所](#)に相談してください。